

招き猫の世界は、かくも面白い。



招き猫博覧会

2016年12月15日[木] - 26日[月]
 京都高島屋7階 グランドホール



ご入場時間=午前10時~午後7時30分(午後8時閉場)。*最終日12月26日[月]は午後4時30分まで(午後5時閉場)。
 入場料<税込>=一般 800円(600円)、大学・高校生 600円(400円)、中学生以下無料

* ()内は前売り及び団体10名様以上の割引料金。前売券は京都高島屋7階チケットカウンターにて12月14日[水]までお求めいただけます。*当催については、「障害者手帳」をご提示いただいたご本人様、ならびに、ご同伴者1名様まで入場無料とさせていただきます。*トワイライトサービス：午後6時からは半額。

主催=京都新聞 後援=「瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会」
 協力=「招き猫ミュージアム」 監修=日本招猫倶楽部

高 Takashimaya KYOTO
 www.takashimaya.co.jp
 TEL (075) 221-8811

ご入場
 割引券

招き猫博覧会

キトリ線
 入場料(税込)=一般800円(700円) 大学・高校生600円(500円) 中学生以下無料
 本券で2名様まで()の割引料金にて、ご入場いただけます。

招き猫博覧会

2016年12月15日[木] - 26日[月] / 京都高島屋7階 グランドホール

ご入場時間=午前10時~午後7時30分(午後8時閉場)。※最終日12月26日[月]は午後4時30分まで(午後5時閉場)。

主催=京都新聞 後援=「瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会」協力=「招き猫ミュージアム」監修=日本招猫倶楽部

日本人に最も身近な縁起物のひとつである「招き猫」は商店のショーウィンドウやスーパーのレジ、会社の受付、個人宅の玄関まで、座っている猫の人形を、誰もが自然に「招き猫」と呼び、日本文化のひとつとして受け入れています。しかし、「招き猫」のことはあまり知られておらず、「いつから?」「誰がつくりはじめた?」「色や形の違いの意味は?」など様々な「なぜ?」が隠されています。

本展覧会では、「招き猫」の歴史、日本文化との関わり、各時代・地域・素材の招き猫のコレクション、そして著名なアーティストがモチーフとした作品など、「招き猫」の魅力を一堂に紹介していきます。

第一章

招き猫の歴史

招き猫は約180年前の江戸に誕生した縁起物です。江戸、明治、大正、昭和、平成と5つの時代を超えて福を招き続けてきました。



古瀬戸 横座り牡丹前垂

常滑古作 大福

第二章

全国の招き猫

江戸の今戸焼、広島常石張り子をはじめ、日本全国で土、紙、木などその土地の素材を生かした郷土玩具の招き猫が作られています。



東京今戸焼「丸ヶ浦」

広島常石張り子

第三章

神社、仏閣に伝わる招き猫

京都の檀王法林寺、大阪の住吉大社、東京の豪徳寺や今戸神社など、招き猫伝説があったり、特別な招き猫を授与したりする寺社があります。



大阪 住吉大社「始終終達四十八体揃」

京都 檀王法林寺
「主夜神尊の御使い猫」

第四章

招き猫コレクション

日本最大の「日本招猫倶楽部・招き猫ミュージアム」(愛知県瀬戸市)から多種多様、貴重な招き猫コレクションがやってきます。



福岡津屋崎人形
「招き猫持ち福助」

三河系「猫抱え娘」

第五章

「招き猫」ART

人々に幸せをもたらす招き猫は現代アーティストの作品モチーフにもなって、さまざまな新しい創作招き猫の世界が広がっています。



もりわじん「大頭猫」

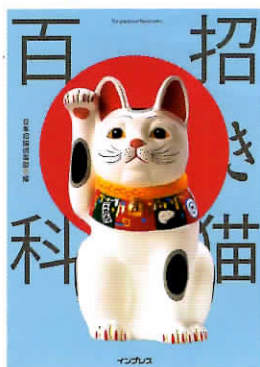
横尾忠則「魔除け猫」

第六章 「招き猫」ふくもの市

瀬戸、常滑、九谷など代表的な窯元の伝統的な招き猫から、人気アーティストの一点もの作品、お手軽な招福グッズまで、福が勢揃い。

イベント限定「ポップアップ招き猫」シリーズ

※写真は一例です。



書籍「招き猫百科」3,132円



「錦彩ちりめん招き猫」2,700円



「開運ぼら袋」(全3種類) 各216円



「開運マグカップ」1,080円



「開運トートバッグ」1,674円

Takashimaya KYOTO
www.takashimaya.co.jp
TEL (075) 221-8811

※品数に限りがございますので、売切れの節はご容赦ください。
※価格は消費税を含む総額にて表示しております。